

## 高大連携 特別授業 (1/18)

1月18日(金)に、国際教養科2年生を対象とした高大連携特別授業が行われました。毎回お願いしている信州大学教育学部・小池浩子先生に来ていただき、異文化理解の授業を60分間実施していただきました。今回は、5~6人のグループに分かれ、それぞれのグループの一人が架空の民族バルンバ人に扮し、他のメンバーとコミュニケーションを取るというもので、ある条件の時にしか応答しないバルンバ人を相手に、なかなかコミュニケーションがとれずに苦労するという体験をしました。反応しない相手にどんな思いを抱いたかとか、どう対応すべきだったのかを振り返ることで、異文化理解で何が大切かを学ぶことができました。



授業の様子



最後に感想を発表

### 【生徒の感想より】

- ・「異文化理解」が完璧にできる人はいないと思う。でも、そのままでは平和な世の中は訪れないでしょう。他国と関わりを絶とうとするのは望ましくないと思う。理解しようとする心がけが大切だと思う。
- ・自分の、異文化の人と接する際のリアルな気持ちが分かった気がした。相手の文化を知って、相手の立場になって考えることは、とても大変で、難しいなと感じた。
- ・相手の文化を知る前に、相手が間違っていると決めつけることはしないようにしたい。
- ・異文化を受け入れるとき、相手がどんな感情を持ち、何をしたいのかが分からないと、こちら側もどんな対応をとれば良いかが分からず、不安、戸惑い、焦りの気持ちを持った。逆に、自分を受け入れてもらうときには、きちんと意思表示をしないとこのように思われるのだと知ることができた。
- ・相手のバルンバ人について何も知らない状態で話をし、コミュニケーションを取ることは本当に不安な気持ちになった。初対面で「この人はこんな人だ。だからもう関わりたくない」という感情を持ってしまう怖さも身にしてみte感じた。
- ・相手のことを何も知らないと、お互いに不信感を抱いてしまうので、事前を知っておくことはとても大切だと思った。
- ・初対面では第一印象ですべてが決まるとよく言われますが、それは“決まる”のではなく自分で“決めてしまっている”のだと感じます。頭の中で勝手に相手のことを決めつけてしまうと、それ以上の深い関係には行けないと思うし、自らそのチャンスをつぶしていることになるのだと思います。
- ・私が他の文化を理解しなければならない機会があったら、粘り強く、慎重に、深く理解しようと思った。
- ・「知っている」ことはもの凄いアドバンテージになり、「無知」とは怖いことなんだなと思った。